



# 気象部門ニュース

発行日 2026.2.4  
発行番号 0185  
発行者 国土交通労働組合  
気象部門委員会  
東京都千代田区霞が関2-1-3  
☎03-3580-4435 FAX03-3593-0359  
代表メール kokkoroso@kokkoroso.org

## 定員削減は中止し体制拡充を！

### Ⅱ第2回気象部門委員会で集中議論Ⅱ

気象部門は、1月18日に第2回部門委員会を開催し、秋季年末闘争の総括を行うとともに、当面の重要課題である定員削減中止や組織拡大などのとりくみについて、議論を深めました。会議には、各支部の代表者やオブザーバー、政策委員を含めて17人が参加しました。

### 会議で出された主な発言は次のとおりです。

#### 待遇改善課題

●年々、定員削減される一方、増員が東京中心であり、地方での体制強化が必要。（関西気象）  
●高齢期の処遇改善は人事院や人事課長交渉でも前向きな回答があった。具体的な事例を挙げて交渉することが重要。（東京気象）  
●りんくう合同宿舎は関西空港ができたときに設置された。2階建ての駐車場で一方的な明け渡しが行われた。定年延長については、5名が最高号俸のまま。6級

のまま予報官で給料が30%カットされる。定年延長に際して、別枠を設けてもらわないと昇格できる人が昇格できない。（関西気象）



関西気象 蓬台さん

●人事院勧告で一万円上がっても定年延長者は七千円しか上がらない。5級が7割支給となつて4級再任用が月収29万円余りと高くなる逆転現象も生じている。（九州気象）

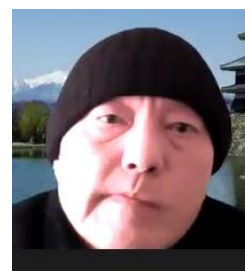
●予報官の現地昇格が取り消されている。人事が昔みたいに地台に出てみてもすぐに戻れなくなつていて、予報課で上げざるを得ないことがある。在級期間の見直しによって駆け足で上がる人が出てくる可能性がある。中枢予報官で以前は6級予報官がいたが、数年前から仙台では予報官のままでは6級に上がれないという話になっている。定員削減では、東北は火山防災係長1人だが、現場では困ると要求書を提出した。全国で業務係長が削減され、防災業務はJETTで対応しているが

観測予報は出張回数が多くなったり、バッテリー運搬でケガをしたり、年度途中で辞める、再任用をやめるなどの状況もある。要求書提出の際に総務部長や人事課長に話をした。（東北気象）



東北気象 山本さん

●宿舎の退去に関して、以前は補修箇所の指摘があり、補修して確認を受けて退去していたが、退去時しか来なくなつた。入居者は財務が指定した業者に電話連絡し、後日、費用の請求がある。業者の作業の関係で退去の3日後でないと入居できない状況になる。年2回の健康診断を受けたが、異常なしとの結果だった。病院に行つて検査したら、緊急入院することになった。異常を見つけられない健康診断に何の意味があるのか。（関東中部気象）



関中気象 柳さん

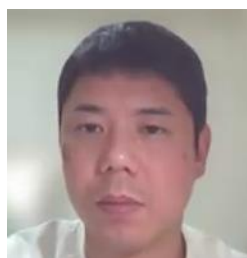
●危機点検等の現場出張における熊等危険動物対策について、他支部ではどうなっているか。当番中の休暇についてはどうか。（北海道気象）  
●昨年に市街地でも熊が出た。熊が出たから出張に行かないということはないが、対策は取られていない。当番中の休暇は聞かない。引き継ぎを丁寧にやっている人は多い。（東北気象）  
●熊対策について、若手アメダス担当とよく行くが、熊よけスプレーで終わる。当番で時休を取る人が出たら、シフトを組んでいるので抜けるのと代理を入れるのは当たり前。（関東中部気象）



## 定員削減、組織拡大

東京気象と九州気象からは、この間の交渉のとりくみ状況についてチャットで資料の共有がと補足説明がなされました。

●火山の1名削減はどうか。JETTについては、4人でなくて3人なので、広い北海道においては不足。(北海道気象)



北海道気象 森さん

●具体的な懸念点を整理して追求・交渉を継続する。増員をふまえて、業務分担の再検討・調整を行う。組織拡大では、羽田航空支部に手伝わしてもらい、交流集会を開催した。(東京気象)



東京気象 高橋さん

●長野の削減は長官交渉でも取り上げてもらった。組織拡大では青年交流集会を北陸信越地協でやると聞いている。

新潟を中心とした北陸地協の青年交流集会の企画・実施に協力し、若手も参加できるよう調整する。(関東中部気象)

●今後も台長交渉を配置し、長官交渉に備える。体制拡充署名は、地協を中心に調整をすすめ、署名用紙の配布やOBへの依頼も継続する。組織拡大では支部の青年関係イベントについてリストアップ・準備をすすめる。(九州気象)

●福岡航空分会として定員削減撤回要求について、長官交渉等で追求を継続する。当局は委託観測について文句を言うなら3人削減するぞと言っている。長官交渉では、福岡の重要性を訴える。観測もTRENDDも品質が下がる。福岡航空の観測体制・一体運用延期等の要求を長官交渉等で強く主張する。削減で航空の安全は守れないし、福岡を認めると

●5年で5%削減がねられる。組織拡大では1月以降、新規採用があるが、働きかけができておらず、やっていきたい。体制拡充署名は、これまでのコミュニケーションも使って要請していく。(気象研支部)



九州気象 松瀬さん

全国に広がりかねない。(九州気象)



気象研 折笠さん

9日には長官交渉に臨みます。各支部・分会の声をもとに定員削減計画の撤回と体制拡充をしっかりと訴えていきましょう！

## 今後の気象部門体制

会議の最後には今後の気象部門の体制について確認がなされ、3月くらいまでは窓口的な

## 12月の長官の回答のポイント(再掲)

- 気象業務の諸課題に適切に対応していくための必要な要員の確保が重要であることはご指摘のとおり。
- 合理化の対象となる各職場において丁寧な説明を行うよう指示した。
- 解決できない問題があれば職場をつうじて出していただきたい。

## 【当面の会議及び交渉配置】

●2月8日(日)14:00~17:00

第3回部門委員会(参集・オンライン併用)

場所:気象庁組合事務室会議スペース

※交渉の事前打合せを含む

●2月9日(月)9:45~11:45(9:00~直前打合せ)

長官交渉

場所:気象庁 6階会議室 2

**重要!**

ところも含めて、井上政策委員が部門委員長代行をつとめることで確認されました。国土交通



労組本部としても、政策委員との連絡を密にして運営をしていくこととしていきます。その一方

で、秋の大会では部門委員長を選出できるように、各支部で検討をすすめることが必要です。